

# 忠実で賢い管理人

シリーズ～福音の力～

2020/06/14

## ルカによる福音書12章35～40節

「腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい。主人が婚宴から帰って来て戸をたたくとき、すぐに開けようと待っている人のようにしていなさい。主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はっきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒がいつやって来るかを知っていたら、自分の家に押し入らせはしないだろう。あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

## はじめて語られる「再臨」

- 「**主人が婚宴から帰って来戸をたたくとき**」
  - 主人（イエス様）は一旦いなくなる
  - そして帰ってくる
  - 「再臨」について初めてほのめかされる
- 「**主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても**」
  - 「人の子は思いがけない時に来るからである」
  - 「泥棒」のように意外な時に？
  - イエス様はいつ帰ってくるか分からない

## 主人の帰りを待っている僕

- 「**主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たち**」
  - 弟子たちはイエス様が帰ってこられるを「目を覚まして」待っていなければならない
- 「**腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい**」
  - 信仰を持ち続け、弟子としての務めを怠りなく続けている
- 「**主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる**」
  - イエス様は目を覚まして待っていた弟子たちをもてなしてくださる

## ペトロの質問 12章41節

そこでペトロが、「主よ、このたとえはわたしたちのために話しておられるのですか。それとも、みんなのためですか」と言うと、

- 初めて「再臨」について聞いたペトロはこのたとえ話の真意を理解できなかった
- 「僕」とは誰のことを指しているのか
  - 「わたしたちのために」: 弟子たち
  - 「みんなのため」: すべての人たち

## もう一つのたとえ 12章42～48節

主は言われた。「主人が召し使いたちの上に立てて、時間どおりに食べ物を分配させることにした忠実で賢い管理人は、いったいだれであろうか。主人が帰って来たとき、言われたとおりにしているのを見られる僕は幸いである。確かに言うておくが、主人は彼に全財産を管理させるにちがいない。

しかし、もしその僕が、主人の帰りは遅れると思ひ、下男や女中を殴ったり、食べたり飲んだり、酔うようなことになるならば、その僕の主人は予想しない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、不忠実な者たちと同じ目に遭わせる。主人の思ひを知りながら何も準備せず、あるいは主人の思ひどおりにしなかった僕は、ひどく鞭打たれる。しかし、知らずにいて鞭打たれるようなことをした者は、打たれても少しで済む。すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、更に多く要求される。」

## 「僕」とは弟子たちのことである

- 「召し使いたちの上に立てて、時間どおりに食べ物を分配させることにした忠実で賢い管理人」
  - 弟子たちはイエス様から託されているものを「管理」しなければならない
- 「主人の帰りは遅れると思い、下男や女中を殴ったり、食べたり飲んだり、酔うようなことになるならば…」
  - 与えられている役割を果たさず、身勝手にやりたい放題にすることもできるが…



## 弟子たちの清算

- 「その僕の主人は予想しない日、思いがけない時に帰って来て」
  - イエス様は思いがけない時に帰ってこられる
- 「言われたとおりにしているのを見られる僕…主人は彼に全財産を管理させる」
- 「主人の思いを知らながら何も準備せず、あるいは主人の思いどおりにしなかった僕は、ひどく鞭打たれる」
  - 言われたとおりにしていた僕は大きな報いを受け、そうでない者は厳しく罰せられる

弟子たち(私たち)に託されているもの

お金

時間

健康

賜物

地球

福音

弟子たち(私たち)に託されているもの

お金

時間

健康

自分のものだと

思ったら

大間違い!

賜物

地球

福音

# 忠実で賢い管理人を目指して

- **先延ばしにしない**
  - イエス様は突然帰ってこられる
- **清算が待っていることを忘れない**
  - 務めを放棄した者には厳しい罰が、忠実な僕には豊かな報いがある(もちろん比喩です！)
- **「すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、更に多く要求される。」**
  - たくさんあることはそれだけ責任が重いということ
- **「主人が帰って来たとき、言われたとおりにしているのを見られる僕は幸いである。」**